

てしかがが



「たくさん取れたよ！」

7月14日に行われた「摩周の里 夏まつり」での1コマ。たくさんのお店が軒を連ね、子どもたちが笑顔で夏まつりを楽しんでいました。

主な内容

- ご存じですか？児童・特別児童扶養手当②
- 協力隊通信……………③
- 第88号町議会だより第2回定例会……………④
- 運動会★体育祭2018……………⑩
- ワクワクスportsにゅーす……………⑫
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……………⑫

てしかがが歴史写真館 208



久摺日誌の記述を紹介する看板(オヤコツ地獄展望台)

こくえん 黒焔噴出し其響遠きに聞ゆヲヤコツ

—松浦武四郎メモリアルイヤー—

屋斜路滞在2日目、武四郎さんは舟に乗って湖上からの調査を開始。最初に立ち寄ったセセカ(現在の池の湯)では、「久寿里の湖 岸のいで湯や あつからん 水乞鳥の 水乞うてなく」という歌を詠みました。その文言を刻んだ碑が、池の湯露天風呂から向かって右手奥の湖畔に立っています。

再び舟に戻り進み始めて間もなく、武四郎さんは「このまま湖岸を一周するとすれば二日もかかってしまう」と気付きます。そこで針路を西へ向け、トウモシリ(現在の中島)を目指しました。壁を立てたような崖が続き、ほの暗い森林におおわれた島の周囲を經由して、さらに進んだ先にあったのがヲヤコツモシリ(現在の和琴半島)です。

—針葉樹の林で、まわりは赤い岩崖。火坑(ボツケイ)が1つあって、たえず黒煙が吹き出し、その響きは遠くでも聞こえる。岸に舟を寄せるよう命じたが、恐れて近づけようとはしないので、少し離れたところに舟をつけ、岸に上がって林の中から見物する—

＜松浦武四郎「久摺日誌」現代語訳・丸山道子著より＞

和琴半島自然探勝路内のオヤコツ地獄展望台には、この時の様子を記録した久摺日誌を紹介する看板が建っています。今、日本最北限の発生地として国の天然記念物に指定されている和琴ミレミレゼミの鳴き声が響き渡る時期を迎えています。地熱と地形が育てきた特異な自然環境が今なお残る貴重な場所を、武四郎さんの思いとともに後世へ受け継いでいきたいものです。

てしかがが郷土研究会 (斎藤)